

2021年9月14日

DENSO KOBELCO SARD GR Supra 第5戦SUGO、奮闘の5位フィニッシュ

SUPER GT 第5戦SUGOレポート

2021 SUPER GT 第5戦「SUGO GT 300km RACE」(9/11-12) スポーツランドSUGO(1周3.704km)

9月12日(日)、2019年以来の東北ラウンド開催となるSUPER GT第5戦「SUGO GT 300km RACE」の決勝が行われ、8番グリッドから粉骨砕身に勝利を目指していったDENSO KOBELCO SARD GR Supraは、スタート担当のヘイキが連なる隊列の中、虎視眈々とチャンスを伺う走りで見事追いつき、3つ順位を上げる5位のポジションで31周を終えてピットイン。交代した中山も中盤以降にセーフティカー導入やフルコースイエロー発動、そしてトラブルやコースオフなどが頻発する荒れた波乱のサバイバル戦となった中、果敢にチャンスを狙う超接近バトルを展開。ヘイキと中山の2名のドライバーが、それぞれのスタイルで闘志あふれる攻めた走りを見せ、奮闘の5位フィニッシュを果たした。

ドライバーポイントは6点を獲得しランキング11位(計20点)、チームポイントは9点を獲得しランキング9位(計35点)に。次戦は、10月23日(土)・24日(日)に九州のオートポリスで第6戦として開催される。

■ 事前情報

シーズンは早くも後半戦に突入し、第5戦は、2019年以来の杜の都仙台近郊のスポーツランドSUGOを舞台とした東北ラウンドとなる「SUGO GT 300km RACE」。9月11日(土)午前に公式練習、午後にノックアウト方式(Q1、Q2)の公式予選で、12日(日)決勝は13時30分スタート、300km(84周：約2時間)で争われ、ドライバー交代を伴うピットストップは1回が義務付け。サクセスウェイトは、現獲得ポイントの倍となる28kgを搭載する。SUGOでの重量増によるタイムの落ち込みは、28kgだと約0.3～0.4秒。また、シーズン2基目のエンジンを投入する。



この第5戦は緊急事態宣言発令中により、観客5,000名以下に人数制限され、チーム関係者も人員削減、PCR検査と更に入場前の抗原検査の両方が義務付け、ピットパドック完全隔離など徹底した感染予防対策を講じながらの開催となる。9月は天候不順が続いており、山間部にありアップダウンの連続する高低差約70mのテクニカルなマウンテンコースのSUGOは、天候も大きな勝負の行方を握る。また狭いコースゆえに激しい超接近戦が展開されアクシデントも発生し易い難コース。DENSO KOBELCO SARD GR Supraのドライバーポイントは前戦悔しいノーポイント。現在、ランキングトップとは26点差と離されているため、運や変わりやすい天候を味方につけ、シーズン折り返しのこの重要な一戦で流れを引き寄せ、最大ポイントを稼ぎたいところ。シリーズタイトル争いに早期に加わるべく、脇阪寿一監督のもとチーム一丸となって、力の限りを振り絞って懸命に努力し続け、粉骨砕身に勝利を目指していった。

■公式練習走行

11日（土）9時20分から開始された公式練習走行は、雲が薄く垂れ込める曇り空に。気温21度/路面温度23度のコンディションの中、95分間の混走セッションが開始された。前日夜の雨の影響で路面は若干ウェット部分があったがコースインの頃にはドライに。ヘイキがタイヤ評価のため、まずソフト側ドライタイヤを装着してコースイン。距離が短く狭いコースゆえにクリアラップが取れず混雑する中、8周目に1分14秒705のその時点で9番手タイムをマーク。その後の赤旗中断中に若干のセット調整を施して再びコースインしセットのアジャスティングとFCYキャリブレーションに時間を費やした。20周目からはハード側タイヤを装着。25周目に1分11秒579の6番手タイムをマークして、中山に交代。ヘイキが装着したソフト側およびハード側タイヤのリピート評価を行った。フィーリングの良かったハード側タイヤでロングランと車高を調整。最後にソフト側タイヤをもう一度チェック。混走セッションはヘイキのマークした1分11秒579のタイムで7番手となった。

10分間のGT500単独セッションでは、気温22度/路面温度26度に上昇。中山がソフト側タイヤでアタックシミュレーションを実施し、5周目に1分10秒996の6番手タイムをマーク。公式練習走行ではトータル60週の走行となった。その後のFCYテスト走行ではヘイキがユーズドのハード側タイヤを装着して13周ほど走行。午後の予選へ向けてドライバーのコメントから、タイヤ選択は慎重にデータの解析を見ながら必要な状況となった。

■公式予選

■Q1：中山が渾身のアタックでQ1トップタイムをマーク

11日（土）Q1開始時点は、日が照った晴れ間もあり、気温24度/路面温度27度のコンディション。残り7分ほどでコースインしたファーストアタッカーの中山。冷静沈着ながら内に熱い闘志をみなぎらせる中山は、自分のフィーリングの良かったソフト側タイヤを選択。丁寧にウォームアップし、5周目に一発で決めるアタックを開始した。セクター1では全体2番目の自己ベスト。セクター2も上位タイムを刻み、セクター3タイムは5番手であったが、セクター4で大きく挽回。アタック1周に懸けてうまくタイムをまとめ上げた中山の渾身の走りで、見事に1分10秒275のQ1トップタイムをマークしてQ2進出を決めた。

■Q2：ヘイキがタイムを伸ばせず8番グリッドに

Q2開始時点では気温24度/路面温度27度と変わらずも日が陰った状況で路気温が下がり始める状況に。開始から残り8分ほどでコースインしたヘイキ。自分のフィーリングの良かったハード側タイヤを装着して丁寧にタイヤを温めていくが前後の温まり具合がうまく同調せず。Q1から若干ではあったが路気温が下がった影響からか、6周目にアタックに入ったセクター1で中山のタイムからコンマ1秒ほど遅れてしまう。十分にグリップを得られておらず特にセクター2でもタイムが伸びず。セクター3でようやくQ1タイムを上回ったが、うまくタイヤの温めとコンディション変化にマッチしていない様子で、あと1周分あればといった様子。ヘイキは思うように実力を発揮できずに1分10秒623の8位となった。明日の決勝は気持ちを切り替えて4列目8番グリッドからの挽回を目指していった。



■決勝

■ウォームアップ走行

12日（日）12時10分から開始されたスタート前20分間のウォームアップ走行は、爽やかながらも気温28度/路面温度44度と山の暑さとなる独特のコンディション。まずは中山がハード側タイヤを装着してアウトインのベディング。続いて走り込んだユーズドソフト側タイヤ装着して感触を確かめた。7周目からはスタート担当のヘイキが決勝セットを確認。ウォームアップは14周を走行。1分15秒093の9番手タイムとなった。

■決勝レース

第1スティント：ヘイキが3ポジションアップの健闘

12日（日）強い日差しが照りつけた中、13時30分決勝スタート時点は、気温29度/路面温度46度に。フォーメーションラップが予定された2周で隊列が整わず1周追加され、レース周回数は83周と1周減算となった中で熱戦の火蓋が切って落とされた。スタート担当のヘイキが8番グリッドからの挽回を目指して、1列に連なる隊列の中、虎視眈々とチャンスを伺う走りで見事追従。16周目に7位に、20周目に6位に、26周目に5位と、着実に順位を上げる健闘の走りで5位にポジションアップ。予定ピットインの際に手前のピットで作業が始まってしまったため、1周遅らせて31周を終えてヘイキをピットに呼び戻した。

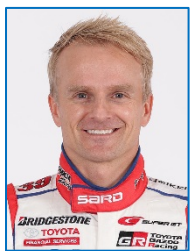


第2スティント：中山が闘志あふれる攻めた走りを見せる

交代した中山は脱兎の如くピットを飛び出していく。ヘイキと同じくハード側タイヤを装着した中山。ヘイキのタイヤの状況をピットから伝えられ残り52週の組立を考えた。ペースをある程度守って走行を続けていったが、中盤以降にセーフティカー導入やフルコースイエロー発動、そしてトラブルやコースオフなどが頻発する荒れた波乱のサバイバル戦となっていく。4位を争う集団につけた中山は、果敢にチャンスを狙う超接近バトルを展開。67周目に一旦抜かれるもポジションを奪え返す熱い走り。75周目には1コーナーで4位37号車に仕掛けた中山は、うまくかわして4位にポジションアップしたかに見えたがリアが接触。直後に後続の36号車にかわされ順位変わらずとも、闘志あふれる攻めた走りで奮闘の5位フィニッシュを果たした。



ドライバーポイントは6点を獲得しランキング11位（計20点）、チームポイントは9点を獲得しランキング9位（計35点）に。次戦は、10月23日（土）・24日（日）に九州のオートポリスで第6戦として開催される。



■ヘイキ・コバライネン

「予選Q2ではハード側タイヤを選んだけど、ウォームアップが半周足りなかった。もう少し前を狙えていただけに残念で申し訳ない。決勝は暑いコンディションになってハード側タイヤに良いコンディションになったけど、ペースの遅いクルマに前を塞がれて中々抜きにくくて上位とギャップが広がった。SCやFCYなど終盤に荒れたレースになったけどユウイチサンの素晴らしい走りでサバイバルレースを生き残って5位でポイントを得られて良かった。自分としては前回2019年に優勝した次のオートポリスで、これまでのリベンジが出来るように集中していくよ。次回こそ、期待に応えられるような結果を残したい」



■中山 雄一

「予選でのアタックは非常にうまくいきました。良いフィーリングが得られていましたが、決勝で自分たちよりもサクセスウェイトが多い車両にもかかわらず、前にいるライバル勢を見ると、まだまだカイゼンしていかなければ結果が得られないと思い知らされました。次のオートポリスは前回2019年に優勝しているだけに、ここでランキング上位浮上のきっかけにしたいと思いますので、大量ポイントを狙って力の限り攻めていきます。引き続き熱い御声援をよろしくお願い申し上げます」



■監督 協阪 寿一

「クルマも良くなり、もっと上手いく手応えを感じていた週末、結果は決勝で5位フィニッシュ。我々も進化したつもりでしたが、ライバル達はもっともっと進化していることを痛感しました。その中で、我々に足りない事も課題も山ほど見つかりました。次は必ずライバル達を追い越して見せます。2年振りのSUGO、応援頂いた東北の皆様と、開催して頂いた事に感謝いたします。次戦の同じく2年振りの開催となるオートポリスも2年分喜んで頂けるレースをします。引き続き温かいご声援をよろしくお願い申し上げます！」

■Qualifying Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time	WH
1	8	ARTA NSX-GT	野尻 智紀／福住 仁嶺	1'09.887	26
2	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT	笹原 右京／大湯 都史樹	1'10.049	20
3	12	カルソニック IMPUL GT-R	平峰 一貴／松下 信治	1'10.238	16
8	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	H.コバライネン／中山 雄一	1'10.623	28

天候：曇り、コース：ドライ

■Race Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time/Diff	Laps
1	12	カルソニック IMPUL GT-R	平峰 一貴／松下 信治	1:56'41.101	83
2	1	STANLEY NSX-GT	山本 尚貴／牧野 任祐	+8.511	83
3	17	Astemo NSX-GT	塚越 広大／B.バゲット	+11.145	83
5	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	H.コバライネン／中山 雄一	+12.596	83

天候：晴れ、コース：ドライ、3.586km×83Laps

■ Drivers Ranking

Pos.	No.	Driver	Total
1	1	山本	55
2	1	牧野	52
3	17	塚越／バゲット	41
11	39	コバライネン／中山	20

Point standings after Rd.5

■ Team Ranking

Pos.	No.	Team	Total
1	1	TEAM KUNIMITSU	69
2	17	Astemo REAL RACING	54
3	36	TGR TEAM au TOM'S	53
9	39	TGR TEAM SARD	35

Point standings after Rd.5

■ Partners

TOYOTA

Owltech

TOYOTA
FINANCIAL SERVICES

NEW
Co., Ltd.

hp

MECHANIX WEAR

Kobelco Steelers
KOBELCO STEEL RUGBY CLUB

TOYOTA
GAZOO Racing

TENNECO

豊田通商

小松開発工業

salomon

MAKE WINNER



DENSO

豊田自動織機

FUJIMAKI
GROUP

Jms

SUUNTO

GruppeM
Racing Inc.

KOBELCO

JTEKT

INOS

中京化成工業

ATOMIC

UNIMAT LIFE

Racing Development
TRD

豊田合成

HAYASHI
TELEMPLO

Mizuno

KARL STORZ NDTec

admic

BRIDGESTONE

進和

ADVICS

ENKEI

ALTAIR

MOTUL

■ 情報参照先

- サード公式ウェブサイト : <http://www.sard.co.jp>
- SARD Facebook : <https://www.facebook.com/SARD.Corporation>
- SARD Twitter : https://twitter.com/SARD_Racing
- SARD Instagram : https://www.instagram.com/team_sard/
- SARD YouTube : <https://www.youtube.com/channel/UCb5NIgwwcB7MtooRFaF5FVA>
- SUPER GT : <http://supergt.net/jp/>

■ 本リリースに関するお問い合わせ先：チーム広報担当：宮本 e-mail: media@sard.co.jp

SARD

株式会社 サード

〒473-0914 愛知県豊田市若林東町上外根50
TEL. 0565-53-1166 FAX. 0565-52-5482

www.sard.co.jp